

表C 小児肥満症の診断に必要な健康障害(表B右, 2017年)の補足

A項目

(1) 高血圧の判定基準:高血圧治療ガイドライン2014

	SBP	かつ/または	DBP (mmHg)
幼 児	≥120		≥70
小学校低学年	≥130		≥80
小学校高学年	≥135		≥80
中学生 男子	≥140		≥85
中学生 女子	≥135		≥80
高校生	≥140		≥85

(2) 睡眠時無呼吸:International Classification of Sleep Disorder 3rdに準拠

小児の閉塞性無呼吸症候群の判定基準:

睡眠中に、いびきや閉塞性呼吸障害などの臨床症状を伴う2呼吸(5秒が目安)以上の呼吸停止が1時間に1回以上ある。

(3) 2型糖尿病:糖尿病治療ガイド2016-2017(血糖値:mg/dL)

①空腹時血糖値≥126, ②OGTT 1.75g/kg体重(最大75g)2時間値≥200, ③随時血糖値≥200, ④HbA1c≥6.5%

- ・初診で①-④のいずれかを認めた場合は「糖尿病型」と診断する。
- ・別の日に再検査を行い、再び「糖尿病型」が確認されれば糖尿病と診断する。
- ・①-③のいずれかと④が確認されれば、初回検査だけでも糖尿病と診断する。
- ・耐糖能異常(impaired glucose tolerance:IGT)とは、空腹時血糖値<126, 140≤OGTT 2時間値<200 の場合である。
- ・100≤空腹時血糖値<110の者は「正常高値」とされる。

(4) 内臓脂肪型肥満:以下のいずれかを満たす場合

- ・臍高で撮影した腹部CT検査で内臓脂肪面積≥60cm²
- ・ウエスト周囲長:小学生≥75cm, 中学生・高校生≥80cm
- ・ウエスト身長比(ウエスト周囲長(cm)/身長(cm))≥0.5

(5) 早期動脈硬化:評価法を問わず基準値を超える場合

- ・血流依存性血管拡張反応(%FMD)≤8.0
- ・上腕足首脈波伝播速度(baPWV)≥1,200cm/秒
- ・総頸動脈内中膜複合体厚(IMT)≥0.55mm
- ・総頸動脈stiffnessβ≥5.0

B項目

(1) 非アルコール性脂肪性肝疾患

- ・ALT優位(ALT>AST), ALT≥25IU/Lで画像診断を推奨
- ・腹部CT検査・腹部超音波検査で明らかな脂肪肝所見
- ・肝生検でNAFLDやNASHと診断

(2) 高インスリン血症かつ/または黒色表皮症

- ・空腹時採血:IRI≥15μU/mL, 頸部に黒色表皮症が存在

(3) 高TC血症かつ/または高non HDL-C血症

- ・TC≥220mg/dL
- ・non HDL-C≥150mg/dL

(4) 高TG血症かつ/または低HDL-C血症

- ・空腹時採血:TG≥120mg/dLかつ/またはHDL-C<40mg/dL

(5) 高尿酸血症

- ・小学生男女・中学生女子:尿酸値>6.0mg/dL
- ・中学生男子・高校生男女:尿酸値>7.0mg/dL

参考項目

(1) 皮膚線条:腹部に明らかな皮膚線条

(2) 肥満に伴う運動器機能障害:下記のいずれかを認める場合

- ・運動器検診で運動器機能障害と診断
- ・肥満に伴う骨折や関節障害の既往
- ・運動器の問題で体育の授業に参加できない

(3) 月経異常:続発性無月経が1年6ヵ月以上持続

(4) 肥満に起因する不登校, いじめなど

(5) 低出生体重児または高出生体重児:出生時体重が2,500g未満または4,000g以上